北のわらしべ

《冬号》令和2年２月10日発行

発行元：社会福祉法人わらしべ会(北海道)
連絡先：〒065-0042
札幌市東区苗穂町３丁目2-35
℡　011-776-7981［法人本部］

2020年を迎えて

理事長　川本 明良

新しい年が始まりました。2020年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

お正月休みが明けたかと思うと新型コロナウイルスに関する連日の報道で大騒ぎになっています。どんな形で終息するのか？目処が立つどころか感染者数や死亡者数が増え続け、世界中に拡大しています。ウイルス感染に関連する記事の中から注目すべき記事が幾つかあります。「日本のラーメン店で中国人の入店を断る張り紙が出された」「ヨーロッパでアジア人を拒否する動きがみられる」などの記事は、感染についてというより、それと異なる意味を含んでいるといえます。ヨーロッパなど非アジア圏では日本人、中国人、ベトナム人などアジア人の違いを見分けられる人はほとんどいません。ヨーロッパ人がアジア人を一括りにしてウイルス感染の恐怖からアジア人を排斥する感覚が拡大することに注意を向ける必要があります。更にそのアジアの中で病気の発生国とされる中国人を拒否する行為に賛否両論がよせられているそうです。単にウイルス感染の恐怖というよりその背景に人種や国籍などの「差別」の問題が潜んでいることを私たちは考える必要があります。

（冬の大滝わらしべ園）

そして障がいのある人が地域で生活する上で大切になるのが、障がい差別の問題や権利擁護という課題です。1月9日－10日に障がいのある人を支援する国内の団体が協力して「虐待防止リーダー養成研修」が開催されました。この研修は障がいのある人の「権利擁護・虐待防止」について、講義やディスカッションを通じて学習するという内容でした。テーマは虐待防止とされていましたが、身体的虐待や経済的虐待などの虐待という枠組みを超えて、障がいのある人の「権利を守る」「エンパワメントを高める」という視点や、福祉サービスについて、意思決定支援、地域で障がいのある人が生活するための課題など幅広い視点の学習に取り組みました。参加者の多くは支援現場で何年も中心職員を務めてきた方たちですから、建設的意見が多く語られました。そのような中にも「施設や事業所に日課があること自体が利用者への強制ではないか？」「福祉事業は契約に基づく支援とはいえ集団生活であり、ある種の強制で成り立っているのではないか？」「部下の支援職員が利用者のためとして求める多くのことが制度や予算面などの理由で実現できない」など中間管理職・指導職として利用者と事業所、管理者と支援員という中間的な立場にある人が感じる、検討するべき内容が多くありました。改めて彼らが支援現場をまとめてくれていることを痛感しました。権利条約批准や虐待防止法など制度上の整備に加えて、支援現場の職員意識の向上、地域の理解促進や「障がい」そのものをどう捉えるのかという点など障がい福祉分野の取り組むべき課題が年々、大きくなってきています。これらを学習し、障がいのある人の権利擁護に取り組みたいと思います。また2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年です。過去には大きく取り上げられることが少なかった「パラリンピック」がオリンピックと並ぶ世界的な大会となったこと、そして私たちの札幌で一部の競技が開催されることをとても楽しみにしています。新型コロナウイルスの感染がおさまり無事に「オリンピック・パラリンピック」が開催されることを願っています。

（馬と雪景色）

岩見沢アールブリュット芸術祭を訪れて（2019年11月17日）

岩見沢でアールブリュット芸術祭が開催されました。親しい知人が舞台公演する「湖南ダンスカンパニー」の関係者として来道、ご連絡頂きこの芸術祭を見学させて頂ました。湖南ダンスカンパニーは知的障がいのある人たちを中心としたダンスグループです。中心となる構成や演出をしっかり感じながら、自由でのびのびとしたダンスの表現を楽しませて頂きました。また障がいのある人の「瑞宝太鼓」は長崎県の社会福祉法人が取り組む世界的なプロの太鼓演奏集団です。年間100以上の公演を実施する“障がい”という概念を超えたエンターテイメントでした。会場を一つにする圧倒的パフォーマンスと緊張感に魅了されました。アールブリュットはじめ、障がい分野では芸術的な活動が一つの流行になっているように感じます。しかし成果がでるのは数年単位の地道な取り組みの後と関係者の方から伺い、改めて芸術活動の奥深さを実感しました。

大滝だより

大滝わらしべ園
〒052-0313
伊達市大滝区大成町１０
℡　0142-68-6344
FAX 0142-68-6345
Mail　waras@ootaki.tv

冬のイベント

（看板を完成させます）

（ホットケーキを自分好みに）

（ツリーを飾りつけます）

（待望のお寿司です）

毎年、恒例の「わらしべ祭」を 11 月 1 日に開催しました。今年は「魔法」をテーマに、有名な魔法映画を意識して特徴的なわらしべ祭となりました。学生の皆様、札幌わらしべ園利用者様を交え、「魔法学校の体験入学」という設定で、魔法薬調合、魔法実技、魔法体験などをテーマにした体験ゲームを実施しました。利用者様や外部からの参加者の皆様、全員が複数のチームに分かれてゲームを楽しみました。時には協力し、時には競い合い、歓声を上げて大変盛り上がりました。また、学生の皆様による太鼓の演奏や札幌わらしべ園の皆様の歌披露、手作りお菓子差し入れ、利用者様・職員のムービーなど見どころ満載の楽しい一日となりました。最後にはゲームで作成した「魔法の色水」を塗って看板を完成させ、それを背景に記念撮影をしました。

12 月 26 日にはご家族の方もお越し頂き「忘年会」を実施しました。この日のテーマは「1 日遅れのクリスマスパーティー」。ツリーの飾りつけから始まりました。上手く飾りつけることができて、皆様嬉しそうな顔をしていらっしゃいました。飾りつけ後は、お待ちかねのランチタイムです。メニューにはシチューやチキンなど、クリスマスらしい食事が並びました。デザートのホットケーキは各自でデコレーションをしてもらいました。自作のホットケーキを楽しみながら食べることができました。一年を振り返るスライドショーもあり、ここでも歓声が上がっていました。ご家族の皆様と一緒に楽しい時間を過ごすことができました。 利用者の皆様の笑顔を見ながら 2019 年の思い出を話す機会となりました。

1 月 23 日には利用者自治会新年会が行われました。今年一年の運試しを兼ねた「おみくじゲーム」は大吉・中吉・小吉のプレゼント付きでした。おみくじの筒が回ってくると、優しく振る方や勢いよく振る方などそれぞれの個性が感じられました。おみくじに皆様一喜一憂されながらプレゼントを選んでいました。新年会の食事は恒例となったお寿司でした。お寿司を楽しみにしていた方も多く、大喜びでした。今年の干支である「ねずみ」を模した絵馬を見て今年の抱負を語る方もいました。

今後の予定

大滝冬の風物詩、クロスカントリー「おおたき国際スキーマラソン」に今年も利用者の皆様が参加します。各自が 1.5km、3km の完走を目標に日中活動の時間を使って職員と一緒にスキーマラソンコースを利用して練習しています。寒い日が続いていますが、天候や気温に負けない熱い気持ちで、好記録を狙えるよう頑張っています。

職　員　紹　介

写真はゴメンナサイ

氏　名：平井（ひらい）　孝仁（たかひと）
出身地：苫小牧市
趣　味：競馬
特　技：スポーツ
１年目　生活支援員

大学では介護・福祉に関する事を学んでいなかった為、入職前は自分に介護の仕事が務まるのか、とても不安でしたが、先輩方の丁寧な指導もあり、すぐに仕事に慣れることができました。また、日常の会話や日中活動で利用者様の笑顔を見ることが出来ると、やりがいを感じて仕事に取り組む動機づけになっています。これからも利用者様一人一人を大切にしながら支援を行えるように、より一層努力したいと思います。

この人紹介／澤村綾恵さん

9 月 20 日生まれのおとめ座。
趣味は音楽鑑賞、歌を歌うのが得意です。 CD から流れる歌に合わせて一緒に歌って、他の利用者様と楽しんでいる姿をよく見ます。日中活動で「歌」や「踊り」に参加している時は笑顔いっぱい！　楽しそうに歌を口ずさんだり、合いの手を入れたりしてくれます。紙をちぎったり握ったりすることが好きなので「創作」活動では率先して、折り紙や画用紙に手を伸ばしてくれます。 夢はいろいろな場所へ旅行することです。

浦河だより

浦河わらしべ園

〒057-0171
浦河郡浦河町西舎 124-1
℡　0146-28-1801
FAX 0146-28-1991
Mail　urakawa-warashibe@deluxe.ocn.ne.jp

浦河わらしべ園では 12 月 7 日に毎年恒例の冬の大イベント「もちつき大会」が行われました。地元の高校生や看護学生、民生委員の皆様のご協力のもと、とても賑やかな行事となりました。参加者や利用者の皆様が餅をつき、ボランティアの皆様が餅を丸め、あんこ餅、きなこ餅、草餅が次々とでき上りました。毎年、大人気のピザ餅も完成し、全員でお腹いっぱい食べました。ご家族と一緒にうれしそうに餅をつかれる方、力いっぱい杵で餅をつく方には「よいしょー！よいしょー！」の大きな掛け声が飛び交っていました。色々な種類の餅があり、どの餅を食べるか悩みながらお腹いっぱい食べることができました。今年のスペシャルイベントとして様似町民族文化保存会の皆様に「アイヌ古式舞踊」を披露していただきました。伝統ある地域のアイヌ古式舞踊に感動し、魅了されました。舞踊の間、手拍子をされる方、踊りに見入る方など、それぞれの鑑賞のスタイルがあり、伝統文化に触れることができるすばらしい機会となりました。同日、もちつきの後にはカラオケ大会も開催され、皆様の美声が施設に響き渡りました。盛りだくさんの楽しい行事で寒さも吹き飛ぶ一日でした。

大晦日はお酒を飲みながら、年末の定番「NHK 紅白歌合戦」を見て 2019 年の最後をむかえました。1 年間の思い出を話す方、昔話に話に花を咲かせる方、新しい 2020 年の計画について話をしながら新しい年をむかえました。年始の初詣は「騎馬参拝」を見学し、新しい一年の祈願をしました。新しい 1 年に各々が思いをはせていました。

2 月 3 日の節分の日は豆まきも行いました。悪鬼を払い厄除けをしました。皆様が豆を手にし、鬼に向かって思いっきり投げました。福を招き、鬼を退治して 2020 年が素晴らしい年になることを願っています。

年末年始＆節分

（おおきく振りかぶって餅をつきます）

（餅に様々な味付けをします）

（騎馬参拝のようす）

（鬼に向かって豆を投げます）

今後の予定

札幌海鮮丸様（お寿司屋さん）をお迎えして、利用者の皆様お待ちかねの浦河わらしべ園「寿司バイキング」を実施します。事前に利用者様が食べたい寿司ネタをアンケートして、せっかくの機会に皆様で楽しめる行事になるよう相談中です。

3 月には「健康祈願祭」を開催します。昨年 4 月からの物故者のご冥福と、地域の方々の安寧を願い圓久寺のご住職をお招きし、ご祈祷を捧げます。

北海道医療大学公開講座（令和 2 年 1 月 19 日）

北海道医療大学サテライトキャンパスに於いて「支援現場のアドボカシー」というテーマで公開講座を開催しました。同大学教官の近藤直也先生のコーディネートで、川本が担当した講座でした。障がいのある人の「意思決定」や「権利擁護」について課題を共有することを講座の目的としました。この講座では「障がい」をどう捉えるかという課題や障がいのある人が地域で暮らすことについても検討しました。実はこの講座の中で、実際に支援に係る職員の悩みや疑問点を、デモンストレーションとして実施してもらいました。草の実会松本映理様のご支援を得て、わらしべ職員（川原・伊丹・廣瀬・鈴木）と実演してもらいました。支援に取り組むことの課題を学習する機会となりました。

札幌わらしべ園
東区事業所

〒065-0042
札幌市東区本町２条６丁目 4-1
℡　011-783-0606（１階）
　　011-790-8130（２階）
FAX 011-790-6572（１・２階共通）
Mail　sawarasibe@cyber.ocn.ne.jp（１階）
　　Whshuurou01@yahoo.co.jp（２階）

年末年始

（ケーキは大成功）

（真剣に書初め）

（今年の抱負は…）

（はじける笑顔でケーキ作り）

東区事業所１階では協力してクリスマスケーキを作りました。事前にどのようなケーキにするかを全員で相談し「フルーツケーキ」を作ることになりました。当日、生クリーム泡立て、スポンジに生クリームを塗る作業などを分担して完成を目指しました。各自が自分の役割を一生懸命に取り組んでくれました。切り分けそれぞれが好きなお菓子をトッピングしオリジナルケーキを作りました。この日のケーキ作りは大成功、共同作業で美味しいケーキが完成しました。その後全員で、出来上ったケーキをいただきました。自分たちで完成させたケーキの味は特別です。とても美味しそうに召し上がっていました。

2020 年の営業日初日に「書初め」を行いました。テーマを今年の目標としました。力強く大胆に書かれる方や、慎重に書かれる方、それぞれが個性を発揮して思い思いに新年の書初めに挑戦しました。 満足のいく書が完成し皆様大喜びでした。

外出活動＆クリスマス

11 月には、円山動物園に行き写生会を行いました。剥製展示スペースでそれぞれが描きたい動物を選んで描きました。なかなかの素晴らしい完成度でした。帰りにはハンバーガーを食べに行き、芸術と食欲を満たす充実した一日となりました。

12 月 25 日のクリスマスにはケーキ作りを行いました。生クリームの泡立てからスタートし、クリームを塗って間にフルーツを挟んだスポンジを切り分け、それぞれが好きなお菓子をトッピングし、オリジナルのケーキを作りました。皆様完成したケーキを美味しそうに召し上がっていらっしゃいました。

1 月 18 日の土曜営業日には、初めて公共交通機関を使っての外出を実施しました。新札幌の商業施設のフードコートでそれぞれが好きな食べ物を選んでランチ。好きなものを嬉しそうに召し上がっていました。外出時の楽しみ方個々別々です。利用者様のご様子や表情などから、職員も一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

（動物園で記念撮影）

（メリークリスマス！）

（皆でバスに乗りました）

（フードコートでの食事）

今後の予定

1 階グループは 2 月に調理実習があります。内容はお楽しみです。メニュー、レシピ、役割分担など利用者様のお好みを考慮し、楽しい調理の日をめざします。

2 階の作業グループは、これからも継続して外部企業受注作業を行います。また各月ごとに季節のイベントに合わせた活動を企画しています。「発表会」を目指して、ダンスの練習にも積極的に取り組んでいます。

大滝わらしべ園の改編について

村井正直先生・陽子先生が昭和 63 年に開設した大滝わらしべ園は、今年の 6 月で 32 年目を迎えます。身体障害者更生施設としての活動開始から、障害者自立支援法の時代になり、施設形態を障害者支援施設として活動を継続してきました。コンダクティブ教育の考え方を基本に、更生施設の時代から利用者の社会復帰や社会参加を目的としながら、これまで乗馬や畑、養鶏、ソバ打ちなど、多くの独自活動に取り組んできました。実は今、福祉人材の不足が深刻な中、大滝わらしべ園もこの事を主な理由として、施設の小型化を進めています。利用者様、および職員は、当初の半数近くに減少しています。法人および職員は今後の大滝わらしべ園の運営をどう展開していくかを考え、施設形態の変更を含めた事業の大きな見直しに取り組んでいます。法人最初の拠点をどのように活用するか？難しい課題の検討中です。方向を決定し、改めて皆様に報告いたします。

札幌わらしべ園
厚別・苗穂事業所

厚別事業所
〒004-0062
札幌市厚別区厚別西 2 条 2 丁目 1-23
℡　011-376-0106
FAX 011-376-0140
Mail sawarasibe@cotton.ocn.ne.jp

苗穂事業所
〒065-0043
札幌市東区苗穂町 3 丁目 2-35
℡　011-776-7981
FAX 011-776-7982
Mail　naebojimu@hotmail.com

芸術外出

厚別事業所は 11 月 26 日に岩見沢市民会館で行われた「アールブリュット・ショーケース」という芸術祭に参加しました。小旅行気分でこの日を待ちに待っていた利用者様もいました。皆様、初めての体験にドキドキ・ワクワクでしたが展示物を見学し、観劇するうちに自分たちも出演・出展したい！という声がありました。外出がアートへの意欲が深まる、良い機会になりました。多くの表現や方法を学ぶことができ、アート活動をより質の良いものにしたいと話しました。帰り道では温泉に立ち寄りました。広いお風呂をのんびり湯につかりリラックスすることができました。温泉の後にレストランで食事をとりました。それぞれが好きな料理を注文し、美味しい食事に舌鼓を打ちました。普段と違う経験に大満足の 1 日でした。帰りの車内では寝てしまう方や、次の創作の構想について話す方もいました。翌日から早速創作活動に力が入り、早くも作品に影響が出ていました。

（集合写真）

（作品の前でピース）

（翌日から早速創作に）

（いつもと違う豪華な食事）

外出活動

（聴き入っています）

（アイドルの歌を熱唱）

（曲中のセリフもキメてくれました）

他事業所と同じように苗穂事業所も、定期的に利用者様と外出にでかけます。日頃の活動とは異なる「社会勉強」「マナー学習」「余暇・娯楽」など毎回、テーマを設定します。

1 月 25 日の外出活動は余暇活動として、待望のカラオケボックスに行きました。外出の日が近づき、カラオケボックスに行くことを伝えると皆様から歓喜が上がりました。今回はすこしでも多くの曲を歌ってもらいたいと考え、事前に歌いたい曲をメモしていただきました。メモ用紙にはそれぞれがお気に入りの曲がズラリと並んでいました。なんと 20 曲程の歌をメモした方もいました。十八番の曲を堂々と歌う方など、事業所の普段の様子と異なる隠れていた一面を見せてくれました。西城秀樹「ヤングマン」が流れた際には、皆様全身で踊りながら楽しみました。懐かしい曲、最近の流行曲など、個性的な選曲、それぞれの曲を聴きながら、楽しいカラオケ外出でした。

（タッピーわらしべ園　開催のお知らせ）

札幌市東区介護予防センターなえぼ様指導による「タッピーわらしべ園」は、住民主体の体操グループ活動です。老化防止や筋力維持をめざして軽い体操に取り組みます。どなたでも参加できますので、札幌わらしべ園苗穂事業所のお近くの方は、タオル、飲み物持参、動きやすい服装でお集まり下さい。札幌わらしべ園職員（作業療法士）も参加します。

場所；わらしべ園苗穂事業所 2 階(3 月まで)
　　わらしべ園苗穂第 2 事業所 2 階
　　(4 月以降開催場所変更)
開催日　3 月 12 日(木)は中止となりました。
　　4 月以降の開催は、決まりましたらお知らせ致します。
時　間　10 時-11 時 30 分（参加無料）

街かどスペース「あごら」わらしべ便り

昨年から 1 月の地域食堂は「もちつき」と決めさせていただいています。今年も利用者様と多くの参加者が一緒になったもちつき大会となり、笑顔がいっぱいの 1 日でした。地域の皆さんに温かく迎えて頂き、苗穂事業所の地域食堂も少しずつ定着してきました。食堂当日はボランティアの皆様が早くから来所して、すべて調理してくれます。費用がかからず、簡単に調理できるメニューも提案してくれます。毎回、応援してくださる方、ご近所の方など顔の見える関係が増えてきました。

地域食堂予定

3 月、4 月中止とさせて頂きます。

クローズアップこの活動

～新年会～

今回は、浦河わらしべ園で毎年恒例の浦河町西舎の優駿ビレッジ「アエル」にて開催する新年会をご紹介します。1 月 20 日にアエルのレストランをお借りしての新年会となりました。食べたいものを事前に利用者の皆様からアンケートし、昨年も好評だったものを交えてメニューを決定します。アンケートで希望の多いものをメニューとして決定したことが良かったのでしょうか、今年は去年よりも評判が良く、メニューを選定した職員もホッとしました。皆様、目の前に広がった大皿に大喜びでした。 職員の出し物は職員バンドによる「ライブパフォーマンス」と昨年も好評だった「ヒゲダンス」です。ドラムを叩いたりギターを弾いたり、いつもと違う職員の一面に皆様、驚きながら演奏中は手拍子で応援してくれました。演奏終了後には拍手喝采となりました。新年会終了後は皆様、熱気冷めやらぬ様子でした。施設に帰園してから「料理がすごく美味しかった。」「去年より今年はすごかった。」など、バンドの職員には「かっこよかった！」「また、やってね‼」と声をかけてくれました。すばらしい新年の幕開けとなりました。

通信　グループホーム　シェアハウス

グループホーム

グループホームメンバーは週末に利用者様に外出や欲しい物の希望を伺い、外出を実施しています。11 月には白い恋人パークのイルミネーションの点灯式に出かけました。レストランで昼食をとり、チョコレート作り体験にも取り組みました。もちろん点灯式も見学し楽しい休日になりました。

シェアハウス

ある利用者様が新しい椅子の購入を希望していたので買い物に出かけました。好みの椅子に腰掛けてみて、気に入った椅子を購入しました。よさこいのチームに所属している利用者様は、定期的に練習に参加しています。少し疲れた表情を浮かべる事もありますが、戻ると「楽しかった」と話してくれます。

苗穂・本町地区センター（コンダクティブ教育/パーキンソンプログラム）

昨年の秋には札幌市苗穂・本町地区センター様の文化祭で大滝産カボチャとジャガイモを販売させていただきました。同センターさんのご好意で、令和 2 年 4 月から隔週でコンダクティブ教育パーキンソン病の方を対象とした運動教室を開催させていただくことになりました。コンダクティブ教育ではパーキンソン病の方に、リズミカルな運動を用いてアプローチします。ご関心のある方は是非ご参加ください。

わらしべ会がお世話になったハンガリーの知人から突然の訃報が届きました。急遽、不参加予定だった同日開催のペトゥ研究所シンポジウム参加を決めてブダペストに向かいました。亡くなったのは知人の奥様（マーリアさん）です。これまでこの御夫妻にはわらしべ会の多くの職員が、お世話になってきました。私もブダペスト滞在 6 年間お世話になり、帰国後も仲良くさせていただいていました。追悼ミサの当日、教会内に讃美歌が響き渡りミサがはじまりました。詩の朗読、神父様のお言葉、故人が好きだったベートーベンの演奏など、教会で感動的な時間が続きました。ハンガリーの役者さんたちが情感を込めて詩を朗読した際には、神聖な空間が緊張であふれました。これまで経験したことのない美しい追悼ミサに感動し、故人マーリアさんを偲びながら教会を後にしました。（川本）

わらしべ会だより／今井さんが語るわらしべの歴史

前回号までで、わらしべ会創設者の村井正直先生と出会った今井さんが大阪のわらしべ園で働き始め、コンダクティブ教育（ペトゥ法）と出会ったこと、その後、ハンガリーに留学するまで話が進みました。今回はその続きです。

（ハーリ、アーコシュ共著）

（編 集 部）　ハンガリーのペトゥ研究所に留学されたのはもう 40 年余り前になるわけですが、特に印象に残っていることがあればお話しいただけますか。

（今井さん）　印象に残っていること、というか人ですね。とりわけ 2 人の人物との出会いです。一人は前回もお話ししたハーリ・マリア所長（当時）です。そしてもう一人はアーコシュ・カーロイ博士。ハーリ所長は女性、アーコシュ博士は男性です。今回はアーコシュ博士の話をしようと思います。

（編 集 部）　ハーリ博士はペトゥ研究所の当時の所長を務めておられたわけですが、アーコシュ博士というのはどういう方だったのですか。

（今井さん）　日本にはあまりいないタイプの在野の研究者で、医師でしたが、本人は生物学者と自称されていました。本もかなり出版されていて、晩年にはドイツの出版社からコンダクティブ教育に関わる英文の書籍を出版しています。かなり早くからペトゥ博士の実践に注目し、ペトゥ博士の研究所をしばしば訪問していたそうです。本人によるとペトゥ博士から「私はやり方を考案して実践するだけでいっぱいで、それを理論化する余裕はない。その役目は君が担ってくれないか」と言われたそうです。実際、ハーリ所長との共著でコンダクティブ教育の教科書を出版もしています。

（編 集 部）　アーコシュ博士もペトゥ研究所で仕事をされていたのですか。

（今井さん）　当時はすでに研究所には関わっていませんでした。私が苦労しているのを見てかハーリ所長がアーコシュ博士の自宅まで車で連れて行ってくれ「理論的なことはこの人に教えてもらいなさい」と紹介してくれたのです。アーコシュ博士は奥さんと 2 人の個性的な娘さんと暮らしておられました。とても温厚な人物で、私は頻繁に訪問させていただきましたが、毎回温かく迎えてくださいました。

（編 集 部）　アーコシュ博士とはどんな話をされていたのですか。

（今井さん）　ペトゥ博士のコンダクティブ教育に関する話は何度もしてくれましたが、私にとっては、かなり高度な内容でした。例えば私たちが療育で関わっていた脳性麻痺についての常識とされる考え方では、神経系の正常な発達とそれをベースにする正常な運動発達というものがあることが前提とされていました。脳性麻痺では、脳の損傷のためにその正常な「あるべき」発達のプロセスが途中で阻害されてしまい、したがって、治療イコールその本来の正常なプロセスを回復させる方法でした。

（編 集 部）　アーコシュ博士が語るコンダクティブ教育の理論は、神経生理学的な理論やそれに基づく正常発達理論と異なる内容だったのですか？

（今井さん）　アーコシュ博士は「世界の多くでそういう認識になっているが、その捉え方ではペトゥを理解できない」と言うのです。そして毎回レクチャーしてくれるのが、ダーウィンとパブロフの話でした。難しい話になりますが、定められた正常発達の道筋があり、障害がある場合に、そのプロセスが阻害されるという理解ではだめだというのです。生物の進化の過程も定まった過程なのではなく、多様な可能性が常にあり、それに対して自然選択が働く（ダーウィンの進化論）とされ、神経系の発達も基本は同じだというのです。また進化における自然選択が、子どもの発達では母親を主とする人間環境で、そこを理解するのにパブロフ起源のある理論を学ぶ必要があるというのです。

（編 集 部）　コンダクティブ教育の基本理論では「協調」や「条件」「環境」ということが重要視されるようですが、当時の今井さんは説明を理解することができたのですか？

（今井さん）　難しい話でしたし、日本に戻って専門家と言われる人たちに話してもほとんど理解されませんでした。それでも私は、常識とされる考え方を疑う姿勢をアーコシュ博士から学び、それは私の人生においてとても大きなことでした。蛇足ですが、最近の脳の研究ではダーウィン的な考え方が注目されてきているようです。

（編 集 部）　ハーリ所長とアーコシュ博士の支援を受けて今井さんの留学生活が始まり、やがて村井先生がすすめた、日本の障がいのある子どもたちのハンガリー留学へとつながっていったのですね。子どもたちの受け入れについては後に、ハーリ所長が様々な場所で語っておられます。

お　知　ら　せ

❀　ありがとうございました　❀

順不同にてご紹介

ご寄贈・ご寄付頂きました。

一般社団法人　室蘭建設業協会　様　　日高建設協会　様
磯野牧場　様　　小笠原 千夏　様　　後藤 ルリ子　様
高橋 京子　様　　川口谷 正・八千穂　様　　平崎 京子　様
石井 静子　様　　佐藤 節子　様　　工藤 久美子　様
女池 好子　様　　石田 成子　様

地域食堂ボランティアスタッフの皆様／地域食堂開催のご支援
皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

札幌わらしべ園苗穂事業所は、地域のミニ図書館として図書を開放しています。この蔵書を創設者の名前から「村井文庫」と名付けました。貸出も行っておりますのでお気軽にお越しください。
開館平日 10:00－17:00
学習スペースもご利用ください。

＊行事予定表＊

	大　滝		浦　河		札幌		法　人	
2月	9 日	国際スキーマラソン	3 日	節分レク	8 日	土曜営業日 地域食堂	17 日	大滝検討委員会
	18 日	徳舜瞥学校 交流会	26 日	寿司 バイキング	13 日	介護予防体操 (苗穂)	18 日	顧問税理士会計指導
							25 日	管理者会議
3月	未定	自治会誕生会	2 日	健康祈願祭	7 日	土曜営業日	3 日	監事監査
	未定	徳舜瞥学校 卒業式			12 日	介護予防体操 (苗穂)中止	7 日	理事会(苗穂)
							27 日	評議員会(浦河)
4月	未定	未定	10 日	交通安全街頭啓発	3 日	地域食堂 （中止）	1 日	入社式 (各施設・事業所)
			未定	お花見				

お知らせ/コロナウイルスに関連して

わらしべ会では令和 2 年度も「地域食堂」などの地域交流や「研修会」「講演会」を予定していますが、報道等を通じて皆様ご存じのように、北海道各地でコロナウイルスの感染が報告されています。感染の今後の広がり状況を検討し、これらの地域関連イベントや活動の休止を検討する可能性があります。皆様に改めてお知らせいたしますので、ご理解のほど、お願い申し上げます。3 月－4 月のイベントはすべて中止とさせていただきます。

ボランティアスタッフ募集

札幌わらしべ園苗穂事業所では毎月 1 回、地域食堂を開催しています。このイベントのボランティアスタッフを募集しています。
住所：札幌市東区苗穂町 3 丁目 2-35
電話番号：011-776-7981（担当：廣瀬）
最寄り駅：JR「苗穂駅」より徒歩 15 分
※食事をされる方は大人 200 円、子ども 100 円を頂いています。

札幌苗穂第 2 事業所の改修工事が 3 月中旬に完了します。工事中、トラックや重機などの出入りでご近所の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。工事完了後、備品や設備などの設置、整理の後に 2 階部分を地域交流スペースとして開放の予定です。解放開始は 4 月中旬を予定しています。

編集後記

北海道は厳しい寒さが続き、北海道では急に雪が多くなって参りました。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか？新しい年を迎え、いよいよオリンピック・パラリンピックイヤーがやって参りました。私たちにとって、とても幸いなことにマラソンと競歩が札幌で開催されることになりました。競技を生で観戦したいと思っている利用者様も多いようです。私たちに感動や勇気を与えてくれる特別な 1 年となりそうです。

冬至が過ぎて、だんだんと昼の時間が長くなってきました。既に春の訪れが待ちどおしい時期になっています。それでもまだ厳しい寒さが続いています。またコロナウイルスの感染が日本中に広がり心配な状況になってまいりました。体調など崩されないようご自愛下さいますようお願い申し上げます。

編集部一同